

飼い主の責任

一緒につれていけますか？



●頭数を考える

一緒に連れて避難できる頭数は限られています。よく考えて適正な頭数を飼いましょう。既に複数頭を飼育していて家族だけの避難が難しい場合は、ご近所や飼い主仲間などをお願いしておくことが重要です。

●猫は室内飼い

猫が外にいますと、災害が起きても呼び戻しができず、避難の時に連れていけません。猫を室内で飼うことは、普段から猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

●不妊去勢をする

不妊去勢をしておくこと、多くのペットと一緒に避難所などでも、繁殖のための争いやストレスを軽減することができます。また、飼い主とはぐれている間に繁殖して放浪する動物が増えれば大きな問題になります。マーキングなど問題行動防止のためにも不妊去勢手術をしておきましょう。

●大きさや健康状態

大型犬や病気のペット、自力で動けない高齢ペットを飼っている場合は、カートや補助具など移動手段を考えておきましょう。家族のほかにも、移動などを手伝ってくれる人を探しておくこと安心です。



身元を示すものをつけていますか？

突然の災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に飼い主のもとに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などをつけ、さらに、首輪などが取れてしまったときの確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった二重の対策をとりましょう。

猫の場合

首輪と迷子札
マイクロチップ

※猫の首輪は引っ掛かり防止のため力がかわるとはずれるタイプのものでよいでしょう。



犬の場合

首輪と迷子札
鑑札と狂犬病予防注射済票
マイクロチップ

※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務づけられています。



その他の小動物の場合

動物の種類に応じて、足環、耳標、マイクロチップなどがあります。



※マイクロチップは15桁の個体識別番号が記録されたチップのことで獣医師により装着が可能です。専用リーダーで読み取り、データベースに照会すると、飼い主情報を確認できます。登録を忘れずに！

災害時に備え、地域の獣医師会や団体、ボランティアなどと協力したペット同行避難訓練を実施する自治体が増えています。お住まいの地域で行われる避難訓練に積極的に参加しましょう。

茨城県では、災害発生時にペットと一緒に安全な避難場所へ避難することの重要性を周知し、避難場所におけるペットの受入体制を構築する目的で、ペット同行避難訓練を実施しています。



平成28年8月 高萩市立秋山小学校における同行避難訓練

静岡県では、ペット動物の災害対策を知ってもらうほか、ペットを飼育していない人にもペットの避難について理解を広げるために避難訓練を実施しています。



平成27年12月 長泉町立長泉小学校における同行避難訓練

ペット同行避難訓練

受付作業と安全な留訓練、獣医師による健康チェック、マイクロチップ読取り等

クレートトレーニング実演、パンフレット配布による啓発、ペット防災用具の展示等